

# 北海道農協青年部協議会が取り組む「教員を対象とした農村ホームステイ事業」とは？（2014年度の活動をもとに）

## 【趣旨・目的】

平成25年度、JA道青協では学校教員への「農村ホームステイ事業」（農村生活体験）の提供を軸とした「食の大切さを伝えるプロジェクト」を進め、体験する教員とホームステイを提供した農業者とともに「食の大切さ」を伝える術を考えた。その成果は「農村・農業ふれあいネットワーク」主催の「H26.2のシンポジウム」や同団体発行の冊子で紹介され、一定の評価を受けた。そのことを受けてJA道青協では、H26年度における事業継続・拡大を決定し、前年度4地区での実施だった受入を道内12地区に増大。また北海道教育委員会との連携事業として道内栄養教諭の初任者研修の一環として同等事業を展開することとした。さらに教員向けの資料等の作成に向け、有識者との意見交換を行っていき。また本年度は、関係者及び有識者等を集めた事業報告及び意見交換会を行い、持続的な仕組への展開を模索するための足がかりを築いていきたい。

## 【目指す方向性（H26年度）】

JA道青協による

「食の大切さを伝えるプロジェクト」

- ・事業拡充と関係機関への報告
- ・教員向けの資料等の充実

持続的な仕組への展開を模索

## 【実施内容（H26年度）】

教員を対象にした農村ホームステイの受入の仕組み作りと教員との連携のあり方を検討

道内12地区での受入の実施

関係機関と意見交換の実施

全道JA青年部大会・部長研修での報告

フォーラムの開催

報告書・資料の作成、まとめ

## 【実施概要】

### 道内12地区での農村ホームステイ受入～教員を対象としたありのままの農家宅での生活体験

期間：平成26年5月～11月  
 場所：北海道12地区  
 対象：地元にある学校勤務の教員  
 受入：青年部員

1泊2日のありのままの生活・農作業体験のふれあいを通じて、いのちの糧である「食」を育む農業について身近に感じてもらうとともに、地元教員との交流を深めた。



東出 敏幸さん  
JA月形町青年部  
(空知地区)

「農村ホームステイを実施するにあたり、子どもたちにどういったことを伝えたいかを明確にして作業内容を決めることが難しく、そして大事な事だと思いました。」



今 尚春さん  
JA宗谷南青年部  
(宗谷地区)

「農家のありのままの姿を先生に見てもらい、消費者に向け生産者が頑張っているということを伝えられるような事業となっていて欲しいと思います。」

### ■北海道教育委員会との連携事業

【栄養教諭研修（宿泊研修）  
 実施に係る農村ホームステイ】  
 日時：平成26年8月11日-12日  
 宿泊研修先：北海道立青年の家（深川市）  
 参加者：女性14名（概ね22歳～35歳）  
（平成26年4月1日採用の道立学校及び市町村立学校に勤務する栄養教諭）



### 参加教員の感想

鈴木 洋伸先生（枝幸町立音標小学校勤務）  
 「土から草へ、草から牛へ、牛から牛乳へとその繋がりを意識することができ、色んな段階で様々な人達が工夫や苦勞をされていることを沢山学ばせていただきました。」



飯田 茉衣先生（東神楽町立東聖小学校勤務）  
 「農村地域の人と人との関わりが暖かく、みんなで1つのことを行っている雰囲気がとてもよいと思いました。自分が体験し、感じたことを子どもたちに還元していきたいです。」

### 関係機関との意見交換の実施



日時：平成26年12月2日（火）  
 9:30～11:30  
 場所：北濃ビル11F会議室  
 （札幌市中央区）

出席者：太田原教授・北海道・北海道教育委員会  
 JA北海道中央会・JA道青協・他



北大名誉教授  
太田原高昭氏

「厳しい農業情勢のなか、未来へのつながりを感じ、全国的にも波及する可能性がある大変重要な取組み。今後もこの取組みを全力で応援するべきであると思われる。」



JAグループ北海道では、「改革プラン」の中で、「農業理解の促進」を掲げ、農村ホームステイの受入体制の強化を各単協の担うべき役割と明示した。

### 「農と学びの連携を考えるフォーラム2015」の開催

日時：平成27年2月28日（日）  
 場所：札幌JLホテル札幌  
 対象：教育関係者等 約220名

26年度実施した農村HS関連の取組発表を行った。またパネルディスカッション形式で意見交換を行い、農村ホームステイ事業の新たな可能性を共有した。



洞爺湖町立虹田小学校糸川教諭の発表。体験を活かし授業を展開したことを報告。「教員がホームステイをすることで地域との間に新たな絆が芽生える」



北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校給食GP指導主事の山際氏の発表。栄養教諭が農村ホームステイをする意義と必要性を報告。「初任者研修で次年度も実施したい」



特別講演として女優・南沢央央さんが農村の魅力について自身の体験を元にスピーチ。「生活体験で感じた食の大切さ・人の温かさ」「体験後の実践」



北海道農政部長農政課政策調整担当課長の桑名氏が進行役をつとめたパネルD。農村の持つ価値と役割について、JA道青協齊藤会長など関係者で議論



文部科学省 ｽｽﾞｰツ・青少年局学校健康教育課健康教育企画室 三谷卓也氏

「食育を進める上で中核となる栄養教諭+教員を対象とした体験活動等の研修の重要性を実感。青年部の取組に大変共感する。活動の輪が広がることを期待する。」